

校異源氏物語・夢のうきはし

やまにおはしてれいせさせ給やうに経仏などくやうせさせ給又の日はよかはに
おはしたればそうつおとろきかしこまりきこえ給としこ御いのりなとつけか
たらひたまひけれとことにいとしたしきことはなかりけるをこのたひ一品の宮
の御心ちのほとにさふらひ給へるにすぐれたまへるけん物し給けりとみたまひ
てよりこよなうたうとひたまひていますこしふかきちぎりくはへ給てければお
もくしくおはするとの、かくわきとおはしましたること、もてさはき、こえ
給御物かたりなどこまやかにしておはすれば御ゆつけなとまいり給すこし人
くしつまりぬるにをの、わたりにしり給へるやとりや侍と、ひ給へはしか侍
いとことやうなるところになんにかしかは、なるくちあまの侍を京にはか
くしからぬすみかもはへらぬうちにかくてこもり侍あひたは夜中あか月にも
あひとふらはんとおもひたまへをきて侍など申給そのわたりにはた、ちかきこ
ろをひまて人おほうすみ侍けるをいまはいとかすかにこそなりゆくめれなどの
給ていますこしちかうゐよりてしのひやかにいとうきたる心ちもしはへる又た
つねきこえんにつけてはいかなりけることにかと心えすおほされぬへきにかた
くは、かられ侍れとかの山さとしるへき人のかくろへて侍るやうにき、侍
しをたしかにこそはいかなるさまにてなとも、らしきこえめなどおもひたまふ
るほどに御てしになりていむことなとさつけ給てけりとき、侍れはまことかま
たとしもわかくおやなともありし人なればこ、にうしなひたるやうにかことか
くる人なん侍をなどの給そうつされはよた、人とみえさりし人のさまそかし
くまでの給はかるくしくはおほされさりける人にこそあめれとおもふにほう
しといひなから心もなくたちまちにかたちをやつしてけること、むねつふれて
いらへきこえんやうおもひまはさるたしかにき、給へるにこそあめれかはかり
心え給てうか、ひたつねたまはんにかくれあるへきことにもあらず中くあら
かひかくさんにあいなかるへしなど、はかり思えていかなることにか侍けんこ
の月ころうちくにあやしみおもふたまふる人の御ことにやとてかしこに侍あ
まものはつせにくわん侍てまうて、かへりけるみちにうちの院といふ所にと
まりて侍けるには、のあまのらうけにわかにおこりていたくなんわつらふと

つけに人のまうてきたりしかはまかりむかひたりしにもまつあやしきことなん
ときゝめきておやのしにかへるをはさしをきてもてあつかひなきてなん侍り
しこの人もなくなりたまへるさまなからさすかにいきかよひておはしければむ
かし物かたりにたまとのにきたりけん人のたとひをおもひいてゝさやうなる
ことにやとめつらしかり侍て弟子はらの中にけんある物ともをよひよせつゝか
はりくにかちせさせなどなし侍けるなにかしはおしむへきよはひならねと
はゝのたひのそらにてやまひをもきをたすけて念仏をも心みたれさせせんと
ほとけをねんしたてまつりおもふ給へしほとにその人のありさまくはしくもみ
たまへすなん侍しことの心をしはかり思たまふるにてんくこたまなとやうの物
ゝあさむきいてたてまつりたりけるにやとなんうけたまはりしたすけて京にゐ
てたてまつりてのちも三月はかりはなき人にてなんものしたまひけるをなにか
しかいもうとこゑもんのかみのきたのかたにて侍しかあまになりて侍なんひと
りもちて侍し女こをうしなひてのち月日はおほくへたて侍しかとかなしひたえ
すなけきおもひ給へ侍におなしとしのほとゝみゆる人のかくかたちというるわ
しくきよらなるをみいてたてまつりてくわんをんのたまへるとよろこひおもひ
てこの人いたつらになしたてまつらしとまとひいられてなくくいみしきこと
ゝもを申されしかはのちになんかのさかもとに身つからおり侍りてこしむなど
つかまつりしにやうくいきいてゝ人となりたまへりけれと猶このらうしたり
ける物の身にはなれぬ心なんするこのあしきものさまたけをのかれてのちの
よをおもはんとかなしけにのたまふことゝものはへしかはほうしにてはずゝ
めも申つへきことにこそはとてまことにすけしめたてまつりてしに侍さらに
しろしめすへきことゝはいかてかはそらにさとり侍らむめつらしきことのさま
にもあるをよかたりにもし侍ぬへかりしかときこえありてわつらはしかるへき
ことにもこそこのおい人ものとかく申てこの月ころをとなくて侍つるにな
と申たまへはさてこそあなれとほのきゝてかくまでもとひいてたまへることな
れとむけになき人とおもひはてにし人をさはまことにあるにこそはとおほすほ
とゆめの心ちしてあさましかればつゝみもあへすなみたくまれ給ひぬるをそう
つのはつかしけなるにかくまてみゆへきことかはとおもひかへしてつれなくも
てなしたまへとかくおほしけることをこの世にはなき人とおなしやうになした
ることゝあやまちしたる心ちしてつみふかければあしきものにらうせられ給け
んもさるへきさきのよのちきりなりおもふにたかきいゑのこにこそものし給け
めいかなるあやまりにてかくまてはふれ給けんにかとゝひ申給へはなまわかむ

とほりなといふへきすちにやありけんこゝにもゝとよりわさとおもひしことに
も侍らす物はなくなつてみつけそめて侍しかと又いとかくまておちあふるへきゝ
とは思たまへさりしをめつらかにあともなくきえうせにしかは身をなけたる
にやなとさまゝにうたかひおほくてたしかなることはえきゝ侍らさりつるに
なんつみかろめて物すなれはいとよしと心やすくなん身つからはおもひ給へな
りぬるをはゝなる人なんいみしくこひかなしふなるをかくなんきゝいてたると
つけしらせまほしくはへれと月ころかくさせ給けるほいたかふやうにものさは
かしくや侍らむおやこの中のおもひたえすかなしひにたへてとふらひものしな
とし侍なんかしなとのたまひてさていとひんなきしるへとはおほすともかのさ
かもとにおりたまへかはかりきゝてなのおめにおもひすくすへくは思ひ侍らさり
し人なるをゆめのやうなることゝもゝいまたにかたりあはせんとなんおもひた
まふるとの給けしきいとあはれと思たまへれはかたちをかへよをそむきにきと
おほえたれとかみひけをそりたるほうしたにあやしき心はうせぬもあなりまし
て女の御身はいかゝあらんいとおしくつみえぬへきわさにもあるへきかなとあ
ちきなく心みたれぬまかりおりむことけふあすはさはり侍月たちてのほどに御
せうそこを申させ侍らんと申給いと心もとなけれと猶ゝとうちつけにいられん
もさまあしければさらはとてかへり給かのせうとのわらは御ともにあておはし
たりけりことはらからともよりはかたちもきよけなるをよひて給てこれなん
その人のちかきゆかりなるをこれをつゝ物せん御ふみひとくたり給へその
人とはなくてたゝたつねきこゆるひとなんあるとはかりの心をしらせ給へとの
たまへはなにかしこのしるへにてかならずつみえ侍なんことのありさまくはし
くとり申ついまは御身つからたちよらせ給てあるへからむことはものせさせ給
はんになにのとかゝ侍らむと申給へはうちわらひてつみえぬへきしるへとおも
ひなし給らんこそはつかしけれこゝにはそくのかたちにていまゝてすくすなん
いとあやしきいはけなかりしよりおもふ心さしふかく侍を三条の宮の心ほそけ
にてたのもしけなき身ひとつをよすかにおほしたるかさりかたきほたしにおほ
えはへりてかゝつらひ侍るほどにをのつからくらひなといふ事もたかくなり
身のをきても心にかなひかたくなとしておもひなからすき侍には又えさらぬこ
ともかすのみそひつゝすくせとおほやけわたくしのかれかたきことにつけて
こそさも侍さらめさらてはほとけのせいし給かたのことをわつかにもきゝをよ
はんことはいかてあやまたしとつゝしみて心のうちはひしりにおとり侍らぬ物
をましていとはかなきことにつけてしもをもきつみうへきことはなにとてかお

もひたまへんさらにあるましき事に侍りうたかひおほすました、いとおしきおやの思ひなどをき、あきらめはへらむはかりなんうれしう心やすかるへきなどむかしよりふかゝりしかたの心はえをかり給そうつもけにとうなづきていと、たうときことなきこえ給ほとにひもくれぬれは中やとりもいとよかりぬへけれとうはのそらにてもものしたらむこそなをひなかるへけれとおもひわつらひてかへりたまふにこのせうとのわらはをそうつめとめてほめたまふこれにつけてまつほのめかし給へときこえ給へはふみかきてとらせ給時くは山におはしてあそひ給へよとすゝろなるやうにはおほすましきゆへもありけりとうちかたらひ給このこは心もえねとふみとりて御ともにいつさかもとになれば御せんの人くすこしたちあかれてしのひやかにをとの給をのはいとふかくしけりたるあをはのやまにむかひてまきるゝことなくやりみつのほたるはかりをむかしおほゆるなくさめにてなかくめる給へるにれいのはるかにみやらるゝたにのゝきはよりさき心ことをひていとおほくともしたる火のゝとかならぬひかりをみるとてあまきみたちもはしにいてゐたりたかおはするにかあらん御せんなどいとおほくこそみゆれひるあなたにひきほしたてまつれたりつるかへり事に大將殿おはしましておほんあるしのことにはかにするをいとよきおりとこそありつれ大將殿とはこの女二の宮の御をどこにやおはしつらむなどいふもいとこのよとほくゑ中ひにたりやまことにさにやあらん時くかゝる山ちわけおはせしときいとしるかりしすいしんのことゑもうちつけにましりてきこゆる月日のすきゆくまゝにむかしのことのかくおもひわすれぬもいまはなにゝすへきことそと心うけれはあみたほとけにおもひまきはしていとゝものもいはてゐたりよかほにかよふ人のみなんこのわたりにはちかきたよりなりけるかの殿はこのことをやかくてやらむとおほしけれと人めおほくてひんなければ殿にかへり給て又のひことさらにそいたしたて給むつましくおほす人のことくしからぬ二三人をくりにてむかしもつねにつかはしゝすいしんそへたまへり人きかぬまによひよせ給てあこかうせにしいもうどのかははおほゆやいまはよになき人とおもひはてにしをいたしかにこそものし給なれうとき人にはきかせしとおもふをいきてたつねよはゝにいまたしきにいふな中くおとろきさはかんほとにするましき人もしりなんそのおやのみ思のいとおしさにこそかくもたつぬれとまたきにいとくちかため給をおさなき心ちにもはらからはおほかれとこのきみのかたちをはにるものなしとおもひしみたりしにうせ給にけりときゝていとかなしとおもひわたるにかくのたまへはうれしきにもなみたのおつるをはつかしとおもひてを

とあらゝかにきこえぬたりかしこにはまたつとめてそうつの御もとより夜部
大将とのゝ御つかひにてこきみやまうて給へりしことの心うけたまはりしにあ
ちきなくかへりておくし侍てなとひめ君にきこえ給へみつからきこえさすへき
こともおほかれとけふあすゝくしてさふらふへしとかき給へりこれはなに事そ
とあま君おとろきてこなたへもわたりてみせたてまつり給へはおもてうちあか
みて物のきこえのあるにやとくるしう物かくしゝけるとうらみられんをおもひ
つゝくるにいらへんかたなくてゐたまへるに猶のたまはせよ心うくおほしへた
つる事といみしくうらみてことの心をしらねはあわたゝしきまておもひたるほ
とにやまよりそうつの御せうそこにてまいりたる人なんあるといひいたりあ
やしけれとこれこそはたしかなる御せうそこならめとてこなたにといはせ
たれはいときよけにしなやかなるわらはのえならすさうそきたるそあゆみきた
るわらうたさしいてたれはすたれのもとについてかやうにてはさふらふまし
くこそはそうつはの給しかといへはあまきみそいらへなとし給ふみとりいれて
みれはにうたうのひめきみの御かたにやまよりとてなかき給へりあらしなとあ
らかふへきやうもなしといはしたなくおほえていよくひきいられて人にかほ
もみあはせすつねにほりかならず物したまふ人からなれというたて心うし
なといひてそうつの御文みれはけさこゝに大将殿のものし給ておほんありさま
たつねとひ給はしめよりありしやうくはしくきこえ侍ぬおほん心さしふかかり
ける御中をそむきてあやしき山かつの中に出家し給へることかへりては仏のせ
めそふへきことなるをなんうけ給はりおとろき侍いかゝはせんもとの御ちきり
あやまちたまはてあいしふのつみをはるかきこえ給て一日のすけのくとくは
ゝかりなき物なれは猶たのませたまへとなんことゝには身つからさふらひて
申侍らんかつゝこのきこきこえ給てんとかきたりまかうへうもあらすかき
あきらめ給へれとこと人は心もえすこのきみはたれにかおはすらんなをいと心
うしいまさへかくあなかにへたてさせ給とせめられてすこしとさまにむきて
みたまへはこのこはいまはとよをおもひなりしゆふくれにいまこひしとおもひ
し人なりけりおなし所にてみしほとはいとさかなくあやにくにおこりてにくか
りしかとはゝのいとかなくして宇治にも時ゝゐておはせしかはすこしおよ
すけしまゝにかたみにおもへりしわらは心をおもひつるにゆめのやうなりま
つはゝのありさまいとゝはまほしくこと人ゝのうへはをのつからきけとおや
のおはすらんやうはほのかにもえきかすかしと中ゝこれをみるにいとかなし
くてほろゝとなかれぬいとおかしけにてすこしうちおほえたまへる心ちもす

れはおほんはらからにこそおはすめれきこえまほしくおほす事もあらんうちに
いれたてまつらんといふをなにかいまは世にある物ともおもはざらんにあやし
きさまにおもかはりしてふとみえんもはつかしとおもへはとはかりためらひて
けにへたてありとおほしなすらむかくるしさに物もいはれてなんあさましかり
なといふらん物もあらぬさまになりけるにやあらんいかにもくすきにしか
たのことを我なからさらにえおもひいてぬにきのかみとかありし人の世の物か
たりすめりし中になんみしあたりのことにやとほのかにおもひいてらるゝこと
ある心ちせしそのゝちとさまかうさまにおもひつゝくれとさらにはかくしく
もおほえぬにたゝひとりものしたまへし人のいかてとをろかならすおもひため
りしをまたやよにおはすらむとそれはかりなん心にはなれすかなしきおりく
侍にけふみれはこのわらはのかほはちるさくてみし心ちするにもいとしのひか
たけれといまさらにかゝる人にもありとはしられてやみなんとなん思侍かの人
もしよにものしたまはゝそれひとりになんたいめんせまほしくおもひ侍このそ
うつゝのゝ給へる人などにはさらにしられたてまつらしとこそおもひはへれかま
へてひかことなりけりときこえなしてもてかくし給へとのたまへはいとかたき
ことかなそうつの御心はひしりといふなかにもあまりくまなくものしたまへは
いまさらにのこいてはきこえたまひてんやのちにかくれあらしなめにかろ
くしくしき御ほとにもおはしまさすなといひさはきてよにしらす心つよくおはし
ますこそとみないひあはせてもやのきはにき丁たてゝいれたりこのこもさはき
ゝつれとおさなければふといひよらんもつゝましかれと又侍御文いかてたてま
つらんそうつの御しるへはたしかなるをかくおほつかなく侍こそとふしめにて
いへはそゝやあなうつくしなといひて御文御らんすへき人はたゝにものせさせ
給めりけさうの人なんいかなることにかと心えかたく侍を猶のたまはせよおさ
なき御ほとなれとかゝる御しるへにたのみきこえ給やうもあらんなといへはお
ほしへたてておほくしくもてなさせ給にはなにことをかきこえ侍らむうとく
おほしなりにければきこゆへきことも侍らすたゝこの御文を人つてならてたて
まつれとて侍つるいかてたてまつらんといへはいとことほりなり猶いとかくう
たておはせそさすかにむくつけき御心にこそときこえうこかしてき丁のもとに
をしよせたてまつりたればわれにもあらてゐたまへるけはひこと人にはぬ心
ちすれはそこもとによりてたてまつりつ御返とく給てまいりなるとかくうと
くしくしきを心うしと思ていそくあま君御ふみひきときてみせたてまつるありし

なからの御てにてかみのかなとれいのよつかぬまでしみたりほのかにみてれいの物めてのさしすきいとありかたくおかしとおもふへしさらにきこえんかたなくさま／＼につみをもき御心をはそうつにおもひゆるしきこえていまはいかてかあさましかりしよの夢かたりをたにといそかるゝ心のわれなからもとかしきになんましてひとめはいかにとかきもやり給はす

のりのしとたつぬるみちをしるへにておもはぬやまにふみまとふかなこの

人はみやわすれたまひぬらむこゝにはゆくゑなき御かたみにみる物にてなんなといとこまやかなりかくつふつとかきたまへるさまのまきはさんかたなきにさりとてそのひとにもあらぬさまをおもひのほかにみつけれきこえたらむほとのはしたなさなどをおもひみたれていとゝはれ／＼しからぬ心はいひやるへきかたもなしさすかにうちなきてひれふしたまへれはいとよつかぬ御ありさまかなとみわつらひぬいかゝきこえんたとせめられて心ちのかきみたるやうにし侍ほとためらひていまきこえんむかしのことおもひいつれとさらにおほゆることもなくあやしうかなりけるゆめにかとのみ心もえすなんすこしゝつまりてやこの御ふみなどもみしらるゝ事もあらむけふはなをもてまいりたまひねところたかへにもあらむにいとかたはらいたかるへしとてひろけなからあまきみにさしやりたまへれはいとみくるしき御事かなあまりけしからぬはみたてまつる人もつみさりとこゝろなかるへしなといひさはくもうたてきゝにくゝおほゆれはかほもひきいれてふしたまへりあるしそのこきみに物かたりすこしきこえてものゝけにやおはすらんれいのさまにみえ給おりなくなやみわたり給て御かたちもことになり給へるをたつねきこえ給人あらはいとわつらはしかるへきことゝみたてまつりなけき侍しもしるくかくいとあはれに心くるしき御ことゝもの侍けるをいまんいとかたしけなく思ひ侍ひころもうちはへなやませ給めるをいとゝかゝることゝもにおほしみたるゝにやつねよりも物おほえさせ給はぬさまにてなんときこゆとこゝろにつけておかしきあるしなとしたれとおさなき心ちはそこはかとなくあはてたる心ちしてわさとたてまつれさせ給へるしになにことをかはきこえさんとすらむたゝひとことをのたまはせよかしなといへはけになといひてかくなむとうつしかたれともゝのものは給はねはかひなくてたゝかくおほつかなき御ありさまをきこえさせ給へきなめりくものはるかにへたゝらぬほとも侍めるをやまかせふくとも又もかならずたちよらせ給なんかしといへはすゝろにゐくらさむもあやしかるへければかへりなんとす人しれすゆかしき御ありさまをもえみすなりぬるをおほつかなくゝちをしくて心ゆかすなからまいりぬいつかとまちおはするにかくたと／＼しくてかへりきたれはすさましく中／＼なりとおほすことさま／＼にて人のかくしすへたるにやあらんと我御心のおもひよらぬくまなくおとしをきたまへりしならひにとそ